平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	1 － 2

1　事務事業の表示

※ ■ ：　該当

事務事業名	雄武高等学校振興事業					
評価者	担当課名		総務課	担当係名		庶務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	片岡力		氏名	林史祥
事業の概要	高校の存続対策及び人材育成の観点から、雄武高等学校に対して部活動への支援と町外生徒への通学費を補助し、入学者数の減少の抑制や魅力ある学校づくりへの推進を図る。					

全体計画 /単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)		
事業費	国･道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	26,368 千円
	事業費計	26,368 千円

実施方法	■	直営		民間委託		その他（　　）
第 5 期 総 合 計 画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	A

事業の位置付け	政策目標	3	のびやか･雄武～教育･文化の振興～
	基本施策	#	学校教育の充実
	単位施策	5	高校への継続的な支援
	事務事業の種類	■	自治事務　　法定受託事務
	その他計画･根拠等		雄武高校遠距離通学生徒通学費補助規程

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	5,786 千円	4,985 千円	5,832 千円	5,031 千円	4,985 千円
	合計	5,786 千円	4,985 千円	5,832 千円	5,031 千円	4,985 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	雄武高等学校
【抱える課題やニーズは】	生徒数の減少から、現行2間口の削減、更には高校存続の問題がある。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	町外からの生徒を確保することにより、入学者数の減少の抑制を図り、生徒数を維持する。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	生徒数を維持することにより、現行の2間口が維持され、地域の学校として存続が図られる。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

町外の生徒数の維持

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 町外の生徒数／町外の生徒数の実績	目標年度	平成21年度
	目標値	15 人
	実績値	15 人
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内　容（どのような手段で何を行ったか）	
町外生徒への通学費補助	町外生徒15人（1年生4人、2年生5人、3年生6人）に対し、バスの定期額分を通学費として補助を行った。
部活動への支援	各部活動における遠征宿泊費の一部補助及び吹奏楽部の楽器購入費に係る補助を行った。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□ 義務的なもの □ 全部 □ 一部	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者数の減少の抑制や魅力ある学校づくりの推進が重要であり、引き続き行政の支援が必要である。当該事業を実施しない場合、町外生徒の入学者数が減少し、生徒数が維持されず、現行2間口の削減や高校存続にも影響を及ぼすことが想定される。

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □ 達成 ■ ほぼ達成 □ 下回る	町外生徒への通学費補助を実施したことにより、町外生徒数の維持が図られ、現行2間口の維持及び高校の存続が図られた。

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 ■ その他	町外生徒については、補助の有無により入学者数に影響があり、今後も補助支援が必要であると思慮され、現状においては、コストに見合った効果が得られていると判断する。

（4）事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る □ その他	通学費補助については、生徒の一部に対しての補助であるが、生徒数の維持を図らなければ、現行2間口の削減や高校存続にも大きく影響することから、公平と判断される。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
雄武高等学校の生徒数を維持するとともに、魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続させるための支援であり、計画どおり事業を進めることができたと判断する。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
北海道教育委員会が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の計画が不透明な中において、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが不可欠であることから、本事業を現状維持で継続することが必要であると判断する。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）